

2学期をはじめるにあたり

□数えたくはありませんが、夏休みも残すところ5日！いよいよ2学期がスタートします。いつもより短い夏休みに少し不満もありながら、生徒のために始業式の準備をしている先生方に感謝です。生徒も重たい気持ちを切り替える努力をきっとして欲しいと思います。夏休み明けの始業式で毎年話題になり、私たちも注意しておくことは子どもの自殺です。久留米市でも悲しい出来事が起きました。約40年間分の18歳以下の自殺者を内閣府が調べたら、9月1日、9月2日や8月31日は自殺者が多く、夏休み前後はピークだそうです。理由としては、宿題が終わっていない、進路への不安、いじめの再開、友だちとの不和など様々です。ある心理カウンセラーは9月は学校行事が多く、先生の管理が厳しくなる、部活がなくなりストレスの発散場がなくなるなどの理由で「いじめが起きやすくなる」とも言っています。いじめられた生徒は、学校がなくてほっとできる夏休みから、いきなりいじめのピークを迎える学校へ行くことになる不安感が大きいのだとも言われています。私たちも気になる生徒への連絡、状況の把握、学年での情報共有をしっかりとやり、2学期のスタートを迎えましょう。

9月の自殺のサイン

- いつもなら楽々できるような課題が達成できない。
- 気力がなかったり、腹痛や頭痛がよく起こったりと、体調不調を訴えている。
- 部屋に閉じこもることが多く、ため息をついたり、涙を流したりする。
- 夜眠れないから昼間寝てしまい、昼夜逆転の生活をする。

出典「いじめ」子ども達の自殺は8月末から増える。見逃せない4つの前兆

学年で協力をして始業式前に気になる生徒への家庭訪問、電話連絡をしましょう。担任一人で抱え込まずに学年や部活動顧問の先生、八杖先生や長先生とも協力していきましょう。

□生徒の弱音を聞いていきましょう！

「気持ちを聞いてくれる人に出会って状況が変わった」ということはよくあります。「気持ちを聞く」という行為は一見、抜本的な解決策には見えませんが、一番大切なのは、まず本人の気持ちが救われることです。そこから新しいスタートです。どうしてつらいのか、どうして休みたいのかを尋ね、その気持ちを一人でも聞いてくれる人がいれば状況は変わると思います。

□2回目の学級開き

教師や親の力だけで問題を解決することは難しいです。当然、友達や学級の仲間大きなカギとなります。2回目の学級開きと考え、掲示物の入れ替えなど、教室環境の整備も必要です。担任として始業式でどんな出会いをするか、大切だと思います。

どうちゃんクラブの作業がありました！

18日（日）15時から作業を行いました。今回は草刈りが中心でした。忙しい中に参加していただいた保護者の方はもちろん、教頭先生、竹並先生、中堀先生、長先生、田中先生も応援に駆けつけていただきありがとうございました。

